

忙しい収穫時期も余裕の作業。品質の高いおうとう作りのために！

果樹・茶用殺虫剤

エクシレル[®] SE

powered by
CYAZYPYR[®]



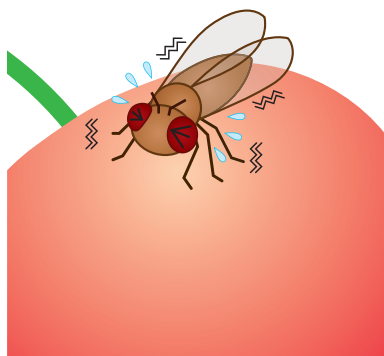
オウトウショウジョウバエに対する作用を理解し、納得の防除を！
消費者に喜ばれるおいしい、美しいさくらんぼづくりにお役立てください。

■オウトウショウジョウバエに対する作用性と使用時期

..... 3つの作用の合わせ技で効果安定

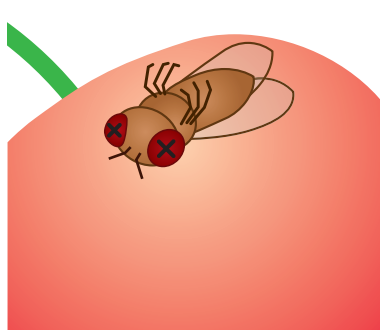
① 殺成虫効果

成虫は吸水およびグルーミングにより有効成分を体内に取り込みます。その後、筋収縮を起こし、速やかに活動を停止します。



② 産卵抑制*

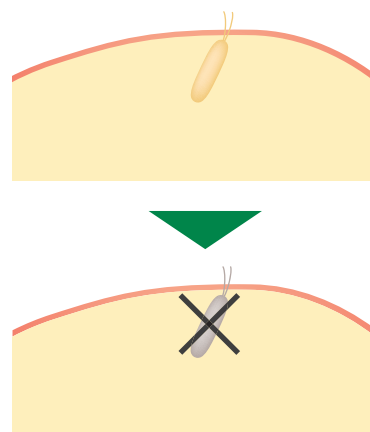
有効成分を取り込んだ成虫は活動が停止します。そのため産卵ができなくなり、産卵数が低下します。



*殺成虫効果に伴う産卵抑制も含む。

③ 殺卵効果

産卵されても孵化できなくなります。



..... おすすめ使用時期

着色後～収穫前 の散布がお勧めです。

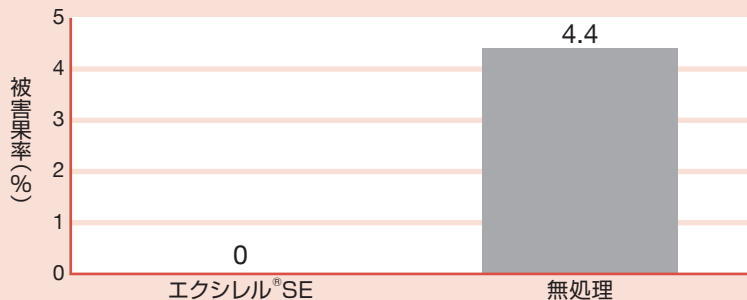
◆効果が長く続く。(10日以上) ◆汚れが少ない。

りんご、なし、もも、ネクタリン、ぶどうなどのおうとうと隣接する果樹に対しても登録があり、「**収穫前日**」まで使用できます。

長期残効に加え、収穫前日まで使用可能。

仕上げの散布に使用することで、余裕の収穫作業を支援します。

■オウトウショウジョウバエに対する効果 (2014年デュボン株式会社社内試験)



【試験概要】

試験場所: 山形県天童市
品 種: 佐藤錦
区 制: 1区1枝、4反復(無処理は反復なし)
対象害虫: オウトウショウジョウバエ
処理方法: 肩掛け式噴霧器で2,500倍希釈液を十分量散布した。
処 理 日: 6月9日、6月18日
調 査 日: 7月1日摘果。被害果率の調査は摘果から6日間静置した後、7月7日に実施した。

■適用害虫と使用方法(抜粋)

2017年12月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
おうとう	ハマキムシ類、オウトウショウジョウバエ ケムシ類、チャノキイロアザミウマ コスカシバ	2500倍	200~ 700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
りんご	シンクイムシ類、ハマキムシ類 ヒメボクトウ	2500~5000倍					
	キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ ケムシ類、ヨモギエダシャク	5000倍					
もも ネクタリン	ハマキムシ類、ケムシ類	2500~5000倍					
	モモハモグリガ、シンクイムシ類						
なし	ハマキムシ類、シンクイムシ類 ヒメボクトウ	2500~5000倍					
	ケムシ類	5000倍					
	ワタアブラムシ	2500倍					
ぶどう	ハスモンヨトウ	2500~5000倍					
	ケムシ類、チャノキイロアザミウマ	5000倍					

■上記以外の登録作物: かんきつ、かんきつ(苗木)、あんず、すもも、茶

△効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- ぶどうの幼果期(小豆大)から果粒肥大期の散布は、果粒の溶脱のおそれがあるので使用しないでください。新梢伸長期から小豆大期前および袋かけ以降に使用してください。
- 過度の連用をさせ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- 適用作物群に含まれる作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蜜に対して影響があるので、周辺の葉葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与える恐れがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱に近づかないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じてください。
- マメコバチに対して影響を与える恐れがあるので、マメコバチの訪花期間中は散布しないでください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。

グループ	28	殺虫剤
------	----	-----

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項: 薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、デュボン®エクシレル®SEまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。年間を通じて適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
(1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト
(<http://www.irac-online.org>)
(2) デュボン株式会社ウェブサイト「デュボン 抵抗性」で検索

- ラベルをよく読んでください。
- 記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 防除日誌を記帳しましょう。

